

識字と学びの社会史

日本におけるリテラシーの諸相

▶ A5判・368頁／定価：本体 7,000円（税別）

ISBN978-4-7842-1772-4

近世日本の識字率は、世界的に高い水準であったということが、研究者の間でも、ある種の定説のように受けとめられているようである。しかし、本当にそうなのだろうか――。

本書では、近代学校制度が導入される以前までの、日本の識字と学びの歴史的展開とその諸相を、様々な史料から多面的に掘り起こし、実証的な検討を試みる。

地域性と個別性を意識した事例の検証が必ずしも十分とはいえない現状に一石を投じる、教育史研究者7名による鋭い論文集。

内容目次

序論

本書の目的／本書の構成

大戸安弘（横浜国立大学教育人間科学部教授）
八鍬友広（東北大学大学院教育学研究科教授）

前近代日本における識字率推定をめぐる方法的検討

「識字」とは何か／文献資料からの推定／寺子屋への就学率からの推定／署名による識字率の推定 おわりに
木村政伸（新潟大学教育学部教授）

「二文不通」の平安貴族

読み書き能力不足の貴族／参議の定文執筆能力／平安後期の貴族社会と文字
鈴木理恵（広島大学大学院教育学研究科教授）

一向一揆を支えたもの

一向宗門徒の学習過程を中心として
道場における学習の成立／宗教的信念の確立
大戸安弘

キリシタンの信仰を支えた文字文化と口頭伝承

浦上崩れと天草崩れ／キリスト教布教期の民衆と文字文化／キリシタン信仰と共同体／禁教下における信仰の継承とオラショ
木村政伸

近世農民の自署花押と識字に関する一考察

梅村佳代（奈良教育大学名誉教授）
――中世末期／近世初期、近江国『葛川明王院史料』を中心として
一四世紀（文保／元応期）、農民の自署花押・略押の検討／一六～一七世紀（天文・天正／慶長期）、農民の自署花押・略押の検討／一七世紀前半（元和／慶安期）、農民の自署花押・略押の検討／一七世紀後半（延宝／正徳期）、農民の自署花押・略押の検討

越前・若狭地域における近世初期の識字状況

八鍬友広
民衆の花押と識字／越前・若狭地域の教育状況／越前・若狭地域の民衆花押／岩本村の地域特性／岩本村における流暢に筆を使う人々

『継声館日記』にみる郷学「継声館」の教育

太田素子（和光大学現代人間学部教授）
――近世会津地方における在郷商人の教育意識
近世の会津高田町と田中文庫所蔵史料について／会津藩の教学政策と郷学
と「継声館」／教師としての田中慶重／重好について／『継声館日記』の概要
と「継声館」教育の特質／学校の生活指導について／日記下巻にみる「継声館」の足跡／入門生徒の背景

武蔵国増上寺領王禪寺村における識字状況

大戸安弘
――寛政・文化期村方騒動を通して
寛政・文化期王禪寺村における村方騒動の概要／王禪寺村民の識字等をめぐる基礎状況

明治初年の識字状況

川村肇（獨協大学国際教養学部教授）
――和歌山県の事例を中心として
明治初年の識字状況に関する先行研究／和歌山県の識字資料／和歌山県識字調査の分析

思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355 tel. 075-751-1781 fax. 075-752-0723
http://www.shibunkaku.co.jp E-mail: pub@shibunkaku.co.jp

注文票		発行：思文閣出版		(京都 取引コード 3402)	
冊数	冊	識字と学びの社会史		本体7,000円(税別)	ISBN978-4-7842-1772-4
お名前			tel		
ご住所	〒		e-mail		
送本方法	☐ 書店経由（このちらしを書店にお渡し下さい） ☐ 代引（書籍代＋送料を現品と引き替えにお支払い）				
				書店番線印	

※江戸時代の図書流通

長友千代治著

佛教大学鷹陵文化叢書7

江戸時代には、京・大坂・江戸を中心とした出版文化の隆盛にもなつて、広汎な図書流通がみられるようになった。版元・本屋・貸本屋と読者を結ぶさまざまなルート、さらに実用書の出版や宣伝方法など、豊富な図版（130点余）を通して平易に明かす。

▶46判・324頁／本体2,200円（税別）

ISBN4-7842-1119-5

大坂学問史の研究

梅溪昇著

近世の上方学問・文化の基礎となつた含翠堂と懷徳堂は、南都大坂の町人たちにとって「開かれた和漢学舎」であり、独自の色合いをもつて進取の学風を生み出し、多彩な足跡を残した。本書は、新しい知見を加え、この二学舎の諸側面にふれ、あわせて関係諸記録も収録した、大坂学問史の一端を明かす好著。

▶46判・220頁／本体2,300円（税別）

ISBN4-7842-0640-X

※在村知識人の儒学

川村肇著

近世後期の在村知識人の姿を具体的な事例によってその諸相をとりあげ、民衆の儒学が教育の近代化とどう関わっていたかを探る。

【内容】日本近世民衆教育史研究史の2つの特質／近世儒学研究史と近代化問題／郷学論争と郷学教育の課題／信濃国下伊那郡の私塾・手習塾・郷学／幕末維新期の漢学教育要求／吉田芝漢とその著述 ほか

▶A5判・278頁／本体6,400円（税別）

ISBN4-7842-0912-3

在村蘭学の展開

田崎哲郎編

地方における蘭学受容の諸相。

【内容】在村の蘭学と地域医療の近代化（青木歳幸）／飯沼塾とその門人の動向（遠藤正治）／美作在村蘭学概論（下山純正）／下野における蘭学の系譜（菊地卓）／新潟県における洋学の系譜（蒲原宏）／明治前期地方医師の概況（田崎哲郎）／蘭塾堂門人・鳥海松亭（平野満）

▶A5判・330頁／本体5,800円（税別）

ISBN4-7842-0701-5

※増補 郷土教育運動の研究

伊藤純郎著

昭和恐慌が深刻化し、郷土の立て直しをはかる自力更生が叫ばれていた1930年代に展開された郷土教育運動の歴史的意義を、柳田国男の郷土研究論と関連させながら、運動を推進した文部省、文部省とは異論を唱える郷土教育連盟、実際にそれをおこなう地域社会の反応を通じて、実証的に解明する。

▶A5判・506頁／本体9,800円（税別）

ISBN978-4-7842-1402-0

札幌農学校と英語教育 英学史研究の視点から

外山敏雄著

1876年開設の札幌農学校は、北海道開拓の人材養成のみならず、内村鑑三・新渡戸稲造など文化史・思想史上の巨人たちを生み出した。その類いまれな光芒を放つ草創期の札幌農学校の教育制度、お雇い教師、所蔵英書、出身の英学者たちに焦点をおき、その特異な存在と役割を明らかにする。巻末に史料・参考文献・索引を付した。

▶A5判・168頁／本体3,800円（税別）

ISBN4-7842-0691-4

知の伝達メディアの歴史研究 教育史像の再構築

辻本雅史編

「学校困難」の21世紀、教育はどこに向かうのか。その問いは、電子メディア主導の現在進行中の「メディア革命」と無関係ではありえない。学校が果たす役割や機能も、17世紀以来の「文字と印刷の時代」とは次元を異にした段階に入っている。

本書では、「教育」を「知の伝達」ととらえ直し、その伝達のための媒体を「メディア」と規定することで、これまでのような、学校を中心とした教育史像ではなく、学校を含みながらも、学校を越えたところでなされる人間形成の営みを、全体としてとらえなおす視点を提示する。

▶A5判・300頁／本体5,700円（税別）

ISBN978-4-7842-1500-3

※近世の学びと遊び

竹下喜久男著

佛教大学鷹陵文化叢書10

18世紀以降、学びの場は都市周辺にとどまらず地方にも広がり、遊学熱の高まりとともに、城下町や三都（京都・大坂・江戸）への遊学生を通して、多様な学芸情報が各地へもたらされることになった。学び・遊びの諸側面を地域との関わりを考慮しながら具体的に紹介し、身近な生活圏内に結実したさまざまな文化を明かす。

▶46判・420頁／本体2,500円（税別）

ISBN4-7842-1184-5

近世私塾の研究

海原徹著

広瀬淡窓、本居宣長、杉田玄白、シーボルト、緒方洪庵、藤田幽谷・東湖、月性、吉田松陰など近世の代表的な私塾の動態と人的交流を多方面から総合的かつ体系的に解明・分析し、その果たした役割と意義を探り、近代への胎動を追求した初の本格的な研究書。写真・図版多数収録。

▶A5判・650頁／本体14,000円（税別）

ISBN4-7842-0747-3

※近世地域教育史の研究

木村政伸著

近世農村社会に存在した多様な内容・水準を持つ教育の構造と、その構造がいかなる社会的背景、過程を経て変容していったのかを明らかにする。【内容】近世の社会構造と分限教育論／吉武法命の学問観と彼の教育活動／峯平蔵と信斎塾／法命系私塾の教育内容とその性格／村役人層における文化・教育構造の変容 ほか

▶A5判・290頁／本体5,700円（税別）

ISBN4-7842-1274-4

福沢屋諭吉の研究

長尾政憲著

福沢諭吉（1835-1901）が安政2年大坂の緒方洪庵の適塾に入り、蘭学を本格的に研究した修学時代からはじめて明治15年『時事新報』を発刊するまでの約30年にわたる生活と事績を実証的に究明する。幕府外国方としての時期や特に書物商としての「福沢屋諭吉」に注目し近代的出版企業の内容・実態を明らかにした諸論は特筆に値する。

▶A5判・592頁／本体9,800円（税別）

ISBN4-7842-0517-9

※幕末・明治期の儒学思想の変遷

山田芳則著

山田方谷、阪谷朗廬ら主に吉備地方の思想家10名をとりあげ、幕末期の儒学思想の特質、近代西洋文明との接触による儒学思想の変容、明治期の儒学思想の課題、さらに儒学批判を通じた明治期における西洋思想形成の過程を解明し、儒学が果たした地域的役割をも考察する最新の論集。

▶A5判・258頁／本体5,600円（税別）

ISBN4-7842-0982-4

三高の見果てぬ夢

中等・高等教育成立過程と折田彦市

巖平著

明治前期（1880～1890年代）における中等・高等教育の成立過程を、第三高等中学校およびその前身校の変遷に即して明らかにする。京都大学大学文書館所蔵「第三高等学校関係資料」等を駆使し、当時の「中学校」の教育機能を考察。

▶A5判・352頁／本体7,500円（税別）

ISBN978-4-7842-1399-3

近代日本高等教育体制の黎明 交錯する地域と国とキリスト教界

田中智子著

医学、洋学一般を教育する場がいかに設置・運営されてきたか。主に1870年代初頭から1890年代初頭までを対象とし、各地域の高等教育体制の展開過程を、府県という地域行政主体、文部省という国の行政主体、伝道を志すキリスト教界、という三勢力の交錯のうちに描く。高等教育史を府県・国・民間勢力の相互関係史として再構成する一書。

▶A5判・448頁／本体7,000円（税別）

ISBN978-4-7842-1618-5



インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年4回無料でお送りしています。
電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。※印の書籍は外函・カバーに汚れ・傷みがございます。